

市教委教職員課の「アングラ推薦名簿・金品授受問題」の再検証を求めます！

愛教大学閥がつくった集金と学閥「長老」への上納システム

学閥が支配している①校長会や②教科研究会等が、学閥が支配している③市教委教職員課に「アングラ推薦名簿*」と金品を提出し、③集めた金品を、教職員課OBボスが飲食に消費するとともに、「内覧」で学閥「ボス」に上納してきました。これらの金額はこの5年間で**350万円程**と推計されます。

愛知教育大学
同窓会=学閥
ボス(長老)
+
教職員
課OBボス

←金品

③ 2023年度市教委教職員課
課長=愛教大卒
首席管理主事=愛教大卒
主任管理主事=愛教大卒
管理主事の78%=愛教大卒
愛教大卒以外の1人の配偶者は愛教大卒校長
愛教大卒以外のもう1人は三重大卒=第二閥

←アン
グラ
名簿
+
金品

① 2023年度市小中学校長会
会長=愛教大卒
副会長の100%=愛教大卒
理事の100%=愛教大卒
小学校長の78%=愛教大卒
中学校長の70%=愛教大卒

② 2023年度市理科教育研究会
会長=愛教大卒
副会長の75%=愛教大卒
事務局長・係長の88%=愛教大卒

「金品」の背景 (検証チーム報告等)

①教職員課への
菓子・果物等の
“激励”

食べきれない
・傷む

↓
②「商品券・現金」
化

* 校長推薦制と被推薦者全員合格を特異な特徴とする、市教委の公式の昇任制度が、「アングラ推薦名簿」の一因。

検証チームの「最終報告書」は、このシステムの概要をつかみながらも、元凶の愛教大学閥の実態のリアルな解明と批判を避けています。わたしたちは、学閥支配の徹底解明と再発根絶策の提言を求めて、「再検証委員会」の新規立ち上げを要求します。

愛知県教職員労働組合協議会(愛教労)

名古屋市教職員労働組合(名教労) ☎242-4474

がっこうコミュニティユニオン・あいち(アスク)

がっこうコミュニティユニオン・なごや(ナスク)

「最終報告書」は愛教大学閥の“仮象”に幻惑されて実態を解明できていない

—検証チームの「最終報告書」の「概要版」(2024年8月28日)の要点(赤字は補足)と問題点— 調査結果

①市立学校の人事・組織の特徴点—「三役(校長・教頭・教務主任)」制度，主幹教諭制度の運用，教員人事への行政職員の関与の少なさ，事務局管理主事の区担当割当制度，管理主事・指導主事の校長出身者の多さ。②昇任等人事の選考過程—昇任等候補者の選考過程に「アングラ推薦名簿」・金品の影響はない。③「アングラ推薦名簿」—教員団体[愛教大閥]内で慣習として引き継がれ，別団体にも伝播し，慣習化と伝播が繰り返されたと推測。④金品授受—すくなくとも20年くらい前には行われていた。原資は公金・準公金ではなく，用途は「会合・飲食費用」「タクシー代等」等[2019年度から首席管理主事(大川栄治)が出納簿に記録]。⑤「内覧」—事務局側(局長・部長級職員[新しい学校づくり推進監・安藤稔]，教職員課長，首席管理主事等)が「校長経験者で現任・退任した教育委員」(青木一，神谷龍彦，西淵茂男)に定期人事異動案を事前に提供した(宴席付)。すべて「愛教大学閥」幹部のしわざだ

事案に対する判断・評価

①総評—「アングラ推薦名簿」・金品の授受は，教委の人事権が長年にわたってないがしろにされ，教委自身も無自覚・無責任であった点で，職員個人の問題よりはるかに重大な問題。人事行政の適正さ・公正さに対する無神経さ，無自覚さ・無責任さこそが事案の本質で，厳しく非難する。このような事態をつくったのが「愛教大学閥」支配だ ②「アングラ推薦名簿」—不正な昇任等選考が行われていないとしても，人事担当が参考にすること自体が大問題。③金品授受—一般的社会通念に照らして言語道断。「教員人事関係者による教員人事システムを維持する集金システムとしての機能」との批判もあながち失当とはいえない。④「内覧」—人事に影響を与えた程度はごく限定的と推測するが，極めて不適切。守秘義務上，問題あり，教育委員会制度の趣旨に悖る。出席の退職者に「教員人事を総覧する大物OB」という虚構を与え，教委制度に対する奢りを生んできた点は極めて不適切。⑤問題の根源は，公務員の自覚や倫理感覚，コンプライアンス[法令遵守]意識の麻痺・欠如。「愛教大学閥」の産物 ⑥校長推薦が候補者の昇任選考の必須条件となる現行制度は見直すべき問題。教務主任制度の取扱いは国会審議を経た省令改正の趣旨[主任を固定せず、多くの適格者が教務事務を経験できるような校務分掌上の配慮等を]に悖る。⑦教員集団の閉鎖的・排他的な仲間意識。これこそ「愛教大学閥」そのもの⑧教委のガバナンス機能の不全。⑨教職員課職員の労務環境—「教員自身の異動希望が相当に重視されるルールを例外なく適用し，権利のように取り扱うことは，地方公務員の人事異動のルールとしては過度な配慮。」平教員の異動では二重基準がまかり通っている。実態の把握もせずに，よくも言えたものだ。⑩愛教大出身者，教科等研究会会員，特定職員団体[名教組]役員であることで人事上の不当な優遇措置があったとは言えないが，少なくない市民が昇任との相関関係を指摘していることは，大いなる課題でより一層の対応が必要。

再発防止策提言

①「アングラ推薦名簿」・金品の受領，「内覧」からの決別宣言。②教委事務局の組織改革—教員出身者と行政職員との協働体制，教職員課所管事務と管理主事区担当制の見直し。③教員人事制度の見直し—教務主任制度・主幹教員制度等の運用見直し，昇任選考制度の改革(校長推薦等の昇任選考要件の見直し，透明化)，人事異動ルールの再点検。④コンプライアンス意識の醸成—倫理意識醸成研修，俯瞰的視野醸成のための民間企業・行政機関への派遣研修。いうまでもなく，管理主事や校長こそが研修を受けるべきだ。平教員に“総懺悔”を強制するな！